

提出いただいた応募書類（規約・会則等、役員名簿、収支書類を除く）は、活動内容紹介のため、ホームページ上に公開します。

【応募用紙】

1. 応募者概要

氏名または 団体名	(ふりがな: よこはましょくぶつかい) 横浜植物会		
代表者の 役職・氏名 (団体の場合)	(ふりがな: かつやま てるお) (役職) (氏名) 会長 勝山 輝男	会員数 (団体の場合)	(令和2年 11 月現在) 178 名
ホームページ アドレス	http://www011.upp.so-net.ne.jp/yoko_syoku/	活動開始年月	昭和・明治 42 年 10 月
活動地域 (複数選択可)	1 横浜市 () 区 2 横浜市全域 ③ その他(横浜市全域および神奈川県全域)		
活動分野 (複数選択可)	① 川・海・水 ② 緑・樹林 3 農業 4 3R ⑤ 環境教育・学習 ⑥ 生物多様性 7 地球温暖化対策 8 その他()		
活動の目的や ねらい	本会は、自然に親しみ、植物に関する研究を行なうとともに、植物及び自然保護の思想普及をはかることをもって目的とする。		
過去に受けた表彰 および受賞年度	(例) 横浜□□賞(平成○年度) 第 11 回横浜環境保全活動賞(平成 15(2003)年)		

2 最近3年間の主な活動

	活動・取組・イベント等の名称 発行した印刷物等の名称	参加人数、発 行部数等	詳細内容
平成 30 年度	<ul style="list-style-type: none"> 横浜市全域の植物相調査 月例会の実施 初心者勉強会の実施 企画展の実施 会報 240 号～243 号の発行 年報 47 号(2018)の発行 	1040 件 延べ 382 名 延べ 90 名 延べ 400 名 各 230 部 180 部	横浜市全域の植物相調査および、さく葉標本の作成 室内講演会 3 回、屋外活動市内および県内外で観察会 8 回実施 市内および県内の里山等で少人数の勉強会を開催。6 回中雨天中止 1 回 こども植物園展示室「横浜から無くなる恐れのある植物、外国から来た植物」 年 4 回発行。会員の啓発と例会・行事等会員の連絡紙として活用 2017 年の会員の研究発表および会の活動を記録に残しまとめた
令和 元 年度	<ul style="list-style-type: none"> 横浜市全域の植物相調査 月例会の実施 初心者勉強会の実施 企画展の実施 会報 244 号～247 号の発行 年報 48 号(2019)の発行 	940 件 延べ 509 名 延べ 71 名 延べ 350 名 各 230 部 180 部	横浜市全域の植物相調査および、さく葉標本の作成 室内講演会 3 回、屋外活動市内および県内外で観察会 10 回実施 市内および県内の里山等で少人数の勉強会を開催。7 回中雨天中止 2 回 こども植物園展示室「神奈川県植物誌と横浜植物会」 年 4 回発行。会員の啓発と例会・行事等会員の連絡紙として活用 2018 年の会員の研究発表および会の活動を記録に残しまとめた

令和2年度	・横浜市全域の植物相調査	482件	横浜市全域の植物相調査および、さく葉標本の作成
	・月例会の実施	延べ172名	室内講演会2回、屋外観察会3回実施。コロナで7回中止。
	・初心者勉強会の実施	延べ53名	市内および県内の里山等で少人数の勉強会を開催。コロナで8回中止
	・企画展の実施	延べ300名	こども植物園展示室「横浜植物会の歴史と横浜の植物2019」
	・会報248号～251号」発行	各230部	年4回発行。会員の啓発と例会・行事等会員の連絡紙として活用
	・年報49号(2020)」発行	180部	2019年の会員の研究発表および会の活動を記録に残しまとめた
	・『横浜植物会の歴史』刊行	300部	創立111周年記念誌」創立100周年以降10年の歴史をまとめた
・『横浜の植物2020』刊行	300部	横浜市全域の植物相を調査し、2003年以降の植物相をまとめた	

注1 上記各活動内容について、県や市からの委託事業は含まれていません。

注2 「さく葉標本」とは、押し葉にして保存する高等植物の研究用の標本

※ 現在活動休止中の場合でも、今後継続して取り組む見込みがある場合は応募の対象とします。

※ 新型コロナウイルス感染症の影響により、現在活動休止中の場合には、「詳細内容」の部分にその旨を御記入ください。

3 地域との関わり

	活動・取組等の名称	詳細内容
自治会・町内会との関わり		
学校との関わり	出前授業	学校の要請により「出前授業」をおこなう。
他の市民団体との関わり	市民の森、公園等の愛護団体等	市民の森や公園内の植物相を調査し、互いの交流をおこなう。
企業等との関わり		
行政との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・こども植物園 ・環境活動支援センター 	<p>(活動内容が行政の補助事業である場合は、補助金交付の部署名と補助金の名称を記載してください)</p> <p>企画展に協働参画:毎年9月の企画展を受け持ち展示している。</p> <p>さく葉標本の管理:こども植物園に隣接する標本館・標本庫に収蔵の20数万点にのぼる標本の管理・調査・登録・保存管理を行っている。(ボランティア)</p>
その他、環境以外の分野との関わり		

4 団体の発足経緯／活動を始めたきっかけ、動機

※立ち上げた主体、どのようにして活動に携わる人が増えてきたのか等も合わせ、具体的に記入してください。

※個人の方は、活動を始めたきっかけについて記入してください。

会は1909年、牧野富太郎を指導者とし、神奈川県立第一中学校教師の松野重太郎が中心となり創立された日本最初の野外植物愛好団体である。神奈川県内の植物相の調査の成果品である『神奈川県植物誌（目録）』には明治45年の編纂から平成30年の第4回改定・増補まで、全てに会員が関わってきた。創立以来111年の歴史を引き継ぎ、横浜市全域および神奈川県全域の植物相調査を次の改定・増補に向けて引き続き調査研究を行い、『横浜の植物2020—横浜の植物（2003）補遺』を刊行した。

5 今までの活動

活動の目標・ねらいに対する成果

会は自然に親しみ、植物に関する研究を行うと共に、植物および自然保護の思想普及をはかることを目的とし、県内の植物相の調査で中心的役割をになって積極的に活動している。また講演会、観察会、展示会を実施し、植物愛好家を育て、その裾野を広げるとともに、自然保護や環境保全についての啓蒙にも努めている。会は横浜市内を中心に、神奈川県内の植物相の調査活動を行い、さく葉標本の製作、調査研究、記録の保存を行っている。また、横浜市こども植物園標本庫の20数万点にのぼる標本の管理・調査・登録を行っている。活動の軸は月に1-2回の横浜市内を中心に県内外で野外観察会を行い、冬季は室内で講演会等を開催している。また、横浜市こども植物園と協働で、展示会、出前授業、落ち葉感謝祭および環境月間協賛観察会等の行事を行っている。

今年度は会の創立110周年記念事業として以下の2点の記念誌の刊行を計画した。

- 1.『横浜植物会の歴史—創立111周年記念誌』創立100周年記念誌のあと10年の歴史を記録に残した。編集に手間取り発行が2020年となったので、誌名を『横浜植物会の歴史—創立111周年記念誌—』とした。
- 2.『横浜の植物2020—横浜の植物(2003)補遺—』2003年に刊行した『横浜の植物』以降の横浜市全域の植物相変化を調査し証拠標本を作製し、その成果を集大成としてまとめた。今回は、こども植物園標本庫収蔵の宮代標本等の古い標本を再同定し、標本の洗い直しを行った。県下の博物館および草創期の会員が採集し、収めた国立科学博物館、東京大学総合研究博物館、日本大学生物資源科学部博物館などの各地の研究機関に収蔵されている横浜市産の「さく葉標本」も含めた。

生物多様性に関する取組（生物多様性特別賞の選考の参考とします）

※取組の中で、生物多様性に関するものを記入してください。

（1ページ「生物多様性特別賞について」に事例を記載しています。）

2003年に横浜市全域の植物相調査のみならず、植物研究史、植物相の変遷、樹木と栽培植物、植物ガイド、暮らしの中の植物をまとめた横浜の植物百科事典としての『横浜の植物』（2003）を引き継ぎ、17年後の横浜の植物相の変化および明治・大正時代以降の「さく葉標本」を調べることにより、横浜の植物相の変遷を知ることができた。その成果を『横浜の植物2020—横浜の植物(2003)補遺—』に反映させた。

6 今後の活動方針

※次年度以降の目標や、活動継続のためにどう引き継いでいくのかも含めて具体的に記入してください。

※現在活動休止中の場合でも、今後の活動の見込みや方針について御記入ください。

1. 会の活動目的を達成するために(1)講演会 (2)観察会 (3)展覧会 (4)会報・会誌の発行 (5)調査研究および記録保存等の活動を通し、多くの市民が参加できる場を作って行く。
2. 会の創設以来行われている横浜市全域および神奈川県内の植物相調査を引き続き行う。
3. 会員および運営委員の高齢化に伴い、退会者が多くでる。若年層の会員を増やすために、観察会等の例会を休日に多くし、若年層が参加しやすい体制を作る。

7 審査にあたり、最も注目してもらいたい取組、PRポイント

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、第28回は、審査会場でのプレゼンテーション（自己アピール）を実施しません。審査の参考とするため、最も注目してもらいたい取組・PRポイントについて具体的に記入してください。

【例】●最も注目してもらい・評価してもらいたい取組

- 一番成果があがっていると思う取組
- 他の団体と異なる自分たちの強み・独自性
- 取組の過程で、どのような努力・苦労があったか など

●最も注目してもらい・評価してもらいたい取組

- ・創立以来111年間、横浜市全域および神奈川県全域の植物相調査を調査・記録を残している。
- ・節目ごとに調査結果を冊子にまとめ、関係機関（横浜中央図書館、神奈川県立図書館、県下の博物館、国会図書館、こども植物園、環境活動支援センターなど）に配布している。
- ・2003年以降の横浜市全域の植物相調査をまとめた『横浜の植物2020—横浜の植物(2003)補遺—』を10月に刊行した。
- 一番成果があがっていると思う取組
 - ・2003年以降の横浜市全域の植物相の変遷を明らかにした。
 - ・横浜市こども植物園標本館の20万点におよぶ「さく葉標本」の管理をおこなっている。
- 他の団体と異なる自分たちの強み・独自性
 - ・創立以来110年以上の歴史と伝統を引き継いで、「調査研究活動と観察会」を両立させ、周年区切りの纏めを刊行物にして発行し、全国の植物愛好家団体の中でも先進的だと評価を受けている。
 - ・県内の博物館とも友好研究団体として情報の交換等を行っている。
 - ・創立当初は学校教育者が会の代表をされ、近年は県立博物館の学芸部長が退職後に会の会長に就任し、学術的基盤がしっかりしている。
- 取組の過程で、どのような努力・苦労があったか
 - ・今年度は新型コロナで屋外観察会を実施するかどうかの判断を下すのに苦労した。
 - ・創立110周年記念事業として『記念誌』を作成するにあたり、県内および全国の博物館に収蔵されている「横浜で採集された明治・大正・昭和初期のさく葉標本」の現物を調査確認し、発掘調査する作業が新型コロナの影響で遅延し、『記念誌』の発行が2020年度にずれ込んだ。
 - ・標本庫管理において、標本室の空調の除湿能力が劣るため収納庫200台に除湿剤を設置している。除湿剤の取り換えが年2回と殺虫剤のナフタリンの取り換え作業が重なりマンパワー不足に苦労がある。
また、データ登録担当者の急逝により、急遽別の係が作業を引き継ぎ、掛け持ち作業が増えた。
 - ・会員の高齢化と新型コロナにより、実働部隊の人数が減少し稼働率が低下した。

2. 詳細・補足資料



令和2年1月15日 こども植物園作業室 初心者勉強会 受講風景



令和2年9月4日 こども植物園展示室 企画展「横浜植物会の歴史と横浜の植物2019」 展示会場



「令和2年度・月例会の実施」令和2年11月1日 横浜市自然観察の森 11月例会 屋外観察会風景
樹木の冬芽やイネ科・グミ科・ナス科・キク科・バラ科・ヤマノイモ科などの植物の比較観察を行った。
イヌセンブ・キキョウの観察を行った。

3. 前回受賞からの発展内容※4

平成13(2001)年3月に横浜市緑政局より『宮代コレクション植物標本目録』が刊行された。横浜植物会は緑政局からの委託事業「横浜緑の環境継承事業」として平成5(1993)年から約12万点にのぼる腊葉標本(宮代コレクション)を1点1点精査し、整理表の作成、パソコンへのデータ入力、新たに標本番号をつけたラベルの作成、そのラベルを台紙に貼り付ける作業、標本の修復、収納する標本の選別、貴重標本の記録、ジーナスカバーの作成、標本棚への収納等々多岐にわたる作業に携わった。

この実績により引き続き横浜植物会は横浜市よりボランティアで横浜市こども植物園の標本館標本庫管理を受けることが決まった。

会は創立1909(明治42)年以来、目的の一つである「横浜市内および神奈川県内の植物相調査」を継続して行ってきた。その調査結果を成果品としての『神奈川県植物目録』(1933)、『神奈川県植物誌』(1958, 1988, 2001, 2018)の改定・増補の全てに会員が関わってきた。

平成13(2001)年7月11日から神奈川新聞「横浜瓦版」に、横浜で見られる植物を易しく解説した「ハマの植物図鑑」と題し連載が始まり、平成16(2004)年3月17日まで毎週129回連載された。

平成15(2003)年6月1日 第11回横浜環境保全活動賞受賞(はまぎんホール)した。

平成15(2003)年7月には横浜市全域の植物相調査結果および植物研究史、植物相の変遷、樹木と栽培植物、植物ガイド、暮らしの中の植物をまとめた横浜の植物百科事典として横浜植物会編『横浜の植物』(2003)を刊行した。

平成16(2004)年6月7日 平成16年度環境大臣賞受賞(東条インペリアルパレス)した。

横浜市こども植物園の活動にたいし、「こども植物園だより」連載執筆、「みどりんぐスクール」講師、「落ち葉感謝祭」協力、「企画展」共催、を外部委託されるまで市と協働活動してきた。現在は「落ち葉感謝祭」協力、「企画展」共催に協力している。

平成21(2009)年12月1日に横浜植物会は横浜市環境創造局環境活動支援センターと「植物標本の管理等に関する覚書」を交わし、横浜市こども植物園標本館の管理をボランティアで携わっている。また横浜市内および神奈川県内の植物相調査を継続しておこない、証拠標本をこども植物園標本館に収納し、標本庫の充実を図っている。

2003年から2020年3月までに登録された総標本数=20,697点 横浜市内標本数=13,338点, 神奈川県内標本数=1,516点, その他標本数=5,843点(宮代標本, 伊達標本, 久内標本を除く)

平成24(2012)年4月 元東邦大学名誉教授であり、元横浜植物会顧問の久内清孝先生の採集した標本、2864点が横浜植物会に寄贈された。この貴重な標本を「久内清孝コレクション」として標本館に受け入れるよう横浜市に要請し、市より受け入れの許可を得た。会は「宮代コレクション」に倣って標本庫に収納した。

令和2(2020)年10月 2003年以降の横浜市全域の植物相調査をまとめた『横浜の植物2020—横浜の植物(2003)補遺—』を刊行した。(グラビアページ4pp+本文161pp)

参考文献；

- ・宮代コレクション植物標本目録 2001 横浜市緑政局
- ・横浜の植物 2003 横浜植物会
- ・横浜植物会の歴史—創立100周年記念誌— 2009 横浜植物会
- ・横浜植物会の歴史—創立111周年記念誌— 2020 横浜植物会